

## 卒業生の合格体験記

「人生設計」

機械科1組 進路先：株式会社 アイシン

私は中学校卒業時、夢という夢がなくただ就職できたらいいなあぐらいの思いで可児工業高校に入学しました。1年生の頃からどこの企業に就職したいか考え始めていました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため企業との交流がほとんどできませんでした。どこの企業がどんなことをしているか、会社というのはどのような所なのか、工場で働くとはどんな感じなのか分からないことがとても多かったです。だからこそいざ就職に現実味が出てきたときに焦らなくてもいいようインターネットなどで少しずつ企業を調べ始めました。私は勉強があまり好きではなかったのですが、就職には成績が一番関わってくると知り、授業を周りの友達よりさらに理解しようと努力しました。勉強だけでなく部活動も大事と知り野球部に入りました。野球部の練習と学習を両立させるというのはとても難しかったです。しかし、部活動で得た経験は就職するにあたって一番いい経験になりました。

2年生になった頃、もともと好きだった車にさらに興味が沸いて自動車に関わる企業に就職したいと思うようになり、希望の就職先が絞れてきました。その頃に初めて学園生という制度があること、その制度のある企業が5社しかないことを知りました。私は最初、学園生というのはとても厳しく自分には無理だと思っていました。しかし先生や両親に勧められ、自分も頑張ってみようと思決心しました。学園生に挑戦するとなると、今の自分の学力ではぎりぎりだと思ったので部活動の引退後は就職試験のため専門科目、SPI、グループディスカッション、面接の対策を始めました。友達や先生方に相談をしたり、指導をお願いするなど時間が許す限り対策をしていました。また、私は面接時に早口になってしまう傾向があったので、相手にどうしたら聞いてもらい易くなるか考えて繰り返し訓練しました。そのおかげで試験当日は自分の考えや、気持ちをしっかりと伝えることができました。希望する株式会社アイシンから内定がいただけたときは体中の力が抜けたと同時に、今まで生きてきた中で一番うれしかったです。

この内定をいただくために関わっていただいた先生方、友達、両親への感謝を忘れず、常に努力を続けていきたいと思います。そして高校生活で見つけた夢に向かって頑張っていきたいと思います。

## 卒業生の合格体験記

「重ねた努力」

機械科2組 進路先：ヤマザキマザックマニュファクチャリング株式会社

私は、「ものづくりに関わりたい」という思いで可児工業高校に入学しました。具体的に何を作りたいかなど全く定まっていない状態でしたが、やりたいことが決まった時に後悔しないよう、毎日の学習と部活動は頑張っていました。

実習の授業で機械を扱いながら1年が経ち、私は金属を切削する機械を作りたいと思うようになりました。工作機械やマザーマシンなどと呼ばれる機械です。将来やりたいことが決まった後、複数の企業について時間をかけて調べ、ヤマザキマザックマニュファクチャリング株式会社を受けることを決めました。具体的な目標が決まったことで学習に対する意欲も高まり、定期考査や成績で常に1位を目指し、努力するようになりました。部活動では美術部に3年間所属し、より良い作品を目指し続ける向上心と継続力を培いました。第一志望の企業を選ぶことができたのは、入学当初からの努力の賜物であると思っています。

3年生となり応募企業が最終決定すると、就職試験のSPIの勉強や、面接の対策にも力を入れ始めました。SPIはそれまでしていた勉強とは少し違うため、新たに問題集も買いました。分からない部分を残さないよう、時間をかけて学習に励みました。

私にとって最も難しく、苦労したのは面接対策です。面接での質問に対する回答を書き出していた時、印象を良くする答え方に自信が持てませんでした。面接試験でどういった答え方をすべきか、ネットの様々な人の記事を調べ、それを参考に自分なりの回答を見つけていきました。また、話すことが苦手で声が小さかったため、先生方やPTAの方による面接指導でもやり直しをしました。しっかりと声を張る意識をし、対面して話すことに慣れるため、何度も練習しました。時間がかかり大変ではありましたが、そのおかげで試験当日は緊張しつつもしっかりと話しきることができました。

その後無事内定を頂くことができたのは、自身の努力と、指導して下さった先生方のおかげだと思っています。先生方や、その他支えてくれた方々への感謝は決して忘れません。

4月からは社会人として、これまでとは全く違う環境に出ていきます。身に付けなければいけない技術・知識は増えるでしょうし、今まで以上の苦労も多くあると思います。しかし、高校生活で得た経験、身に付けた力を活かし、頑張りたいと思います。企業を選んだ時の思いを忘れず、日々努力を重ねていきます。

# 卒業生の合格体験記

「努力」

電気システム科 進路先：愛知工業大学

私はもともと電気の分野に興味があり可児工業高等学校に入学しました。高校で学ぶ中で発電に関する仕事に就職したいと思うようになり、そのための知識を進学してもっと深く学びたいと考えるようになりました。

私は始め、進学先にこだわりがなくいろいろな専門学校や大学について調べるだけにとどまっていた。そこで担任の先生に相談したところ、愛知工業大学を勧めていただいたので、調べてみたりオープンキャンパスに参加したりして、大学のカリキュラムが自分の学びたいことと合っていることや実験・実習のための設備や施設が整っていることが分かり、大学へ進学するための勉強や試験の対策に力を入れるようになりました。

愛知工業大学の電気工学専攻では、計測・制御、通信・情報、エネルギー、電気・電子材料などは幅広い分野の専門教育を行い、電気を「つくる」と「使う」、両方に精通した技術者を育成する学科です。私の学びたい発電やエネルギーの分野だけでなく、電気に関する様々な分野を学ぶことができるため、愛知工業大学への受験を決めました。

愛知工業大学を受験するにあたって、ひたすらに基礎学力をつけるための学習と面接対策を行いました。試験の口頭試問の範囲である英語、物理、数学を中心に高校の範囲を総復習したり、問題集や教科書の問題を解き直したりしました。また、先生方に手伝っていただいて問題集の問題を口頭で話しながら解いていく練習もしました。そのため、試験のときには落ち着いて自信をもって質問に答えることができました。面接は、どんな質問にも答えられるように話す内容を事前に考えたり、自分の話す内容についてあらゆる情報を集めたりして面接に挑みました。そのため、本番の面接では焦らずに受け答えをすることができました。また、大学に合格したことが分かってからは数学Ⅲなどを勉強して、大学で出遅れないようにしています。

大学入学後は、これまでよりも大変なものになると思います。ですが、4年間常に自分の目標に向かって努力し、後悔のない大学生活にしたいです。また、進学に向けて様々なサポートをしてくださった先生方や一緒に高め合ってきたクラスの仲間たち、今まで学んできたことを忘れず、努力し続けようと思います。そして、大学で多くの知識を身に付け夢を叶えてみせます。

# 卒業生の合格体験記

「夢見る」

化学技術科 進路先：株式会社アドマテックス

私は幼い頃から化学に関する動画を見るのが好きで、将来は化学関係の企業に就職したいという目標を持ちながら、可児工業高校に入学しました。しかし、化学関連の企業に就職したいと思っていても具体的にどの企業に入りたいのかは、すぐには決められませんでした。そのため、自分の選択肢を広げるために、成績上位の維持を目標にして頑張りました。そして、2年生の進路ガイダンスで株式会社アドマテックスの説明を聞く機会がありました。半導体の素材を製造しており、自動車やスマートフォンのような情報端末に利用されていることを知った私は、ウェブサイトを見てオンリーワンの技術で最先端の製品を開発していることも理解しました。私はこれに魅力を感じ、自分もこの会社で働いてエンジニアとして腕を磨いていきたいと思いました。

そのように目指す企業が決まった反面、やむを得ない事情で部活動を退部しました。その分、資格をたくさん取得することに全力を注ぎました。私は日本語が不得意ということもあり、英語と数学以外は勉強に苦勞していました。しかし、分からないことを先生や友達に聞いたり、1人で勉強するときには文章を翻訳するなど努力をしました。そうすることで、できなかったことができるようになり、勉強することが少し楽しくなりました。そして、自分の英語力をさらに鍛えるために、TOEICや英語スピーチコンテストに挑戦して得意分野をさらに磨きました。

3年生になってから、採用試験に向けてSPIや一般常識の問題を解き始めました。また、面接対策をするために友達との会話とおしてコミュニケーション能力を鍛えました。さらに、面接指導でアドバイスされたことを意識して何回も練習しました。試験当日は緊張しましたが、対策も十分にしていたので面接は落ち着いて答えることができました。筆記試験では少し苦戦しましたが、勉強したことを思い出して解きました。その結果、無事に合格しました。

合格できたのは私一人だけの頑張りのおかげではありません。親や先生方、友人たちの助けがあったからこそ、就職だけでなくいろいろなことを成し遂げました。これからの人生はまだ先が長く、幾度も壁にぶつかって思い通りにいかないこともあると思いますが、今まで支えていただいた方々への感謝の気持ちを抱きながら、前を向いて進んでいきます。

# 卒業生の合格体験記

「感謝」

建設工学科 進路先：岐阜県職員

私が可児工業に入学したのは、土木について学ぶことができ、就職に強い学校だと知ったからです。入学当初は就職をしたいと考えておりましたが、具体的な方向性は決まっていませんでした。学校生活では、自分の希望する就職先に就職活動ができるように日頃から学業、資格取得に励みました。建設工学科の土木類型を選択したのはインフラ整備に携わる仕事を通して、人々の生活を支える土木技術者になりたいと思ったからです。

2年生になり、就職先を考えている中で公務員の土木職について知り、興味を抱きました。

公務員にも色々あり悩みましたが、幅広い分野で地方自治体の中で最もスケールの大きな業務を担うことができる地元・岐阜県に最も魅力を感じました。進路が少し見えてきたことで、これまで以上に自分を磨きたいと思うようになり、在学中に取得できる資格はすべて挑戦することができました。土木施工管理技士補や測量士補の国家資格を取得することができ、自分に自信をもつことができました。

2年生の後半から公務員の説明会や講座に通い、どのような勉強が必要なのかを学びました。公務員試験はこれまで習ったことの無い分野もあり、初めは問題の半分も解けませんでした。分からないことの方が多くとても大変でしたが、これを乗り越えることで自分の将来になりたい姿に少しでも近づけると思って頑張りました。3年生になり一発塾に通い、放課後は図書館やマーノへ行き本格的に試験勉強を始めました。学校で実施していただいた模擬試験を何度も受験させていただき、自分の成長を確認しながら勉強する毎日でした。一次試験では勉強を始めたころに比べ、成長した自分を見せることができたと思います。

面接では、試験前に提出したエントリーシートの中からいくつか質問されました。エントリーシートには、志望動機や特に力を入れて取り組んだこと、自己PRなどの質問がありましたが、試験当日は胸を張って自分のベストを尽くせたとします。

高校3年間はとても短い間でしたが、自分の目標に向かって努力すること、目標がない場合はこの先自分の選択肢の幅が広がるような行動をとることが大切だと学びました。また、担任の先生をはじめとする多くの先生方にお世話になりました。公務員試験が受かったのも多くの先生方の支えがあつてこそでした。このように支えてくれた方々への感謝の気持ちを忘れず卒業していきたいです。本当にありがとうございました。